

第14回 中国支部例会

- 1 日程 2024年3月24日(土) 15:00~18:00
- 2 参加者 小学校10名 中学校2名 特別支援学校1名 大学生1名 大学院生1名
大学4名
- 3 内容

【第1部 模擬授業提案】

「カップ・ミュージックによる創作活動の試み

ー児童生徒が相互に関わり合ってリズム創作する意義について考えを深めるー

広島文化学園大学 永井美由紀

映画「ピッチ・パーフェクト」で使われている8小節の基本のリズムと、即興的に創ったリズムを Rond 形式で演奏した後に、グループでタイトルをつけ、16小節のリズムを創作して発表した。模擬授業後の協議では、児童・生徒が相互に関わり合ってリズム創作する意義について模擬授業の体験をもとに考えた。

【第2部 口頭研究発表】

○「音楽科における拡張的学習の試み ー教員養成の立場からー」

広島女学院大学 森保尚美

教員養成課程において、幼稚園教諭や小学校教員を目指す大学の学生が、音楽活動の対外的価値や社会的意義を経験する拡張的学習が提案された。「子育て応援団すこやか」のイベント参加後に主催者と接点を持ち、教育課程外の視野を得ることで、どのような学びがあったかについて、成果と課題の発表があった。

○「多様な発想を引き出す音楽づくり活動の実践的研究」

広島大学大学院 後藤 湊

小学校第4学年の打楽器を使った音楽づくり活動の指導において、演奏例を多様に提示することや、種類の異なる楽器のアンサンブルの学習を設定することで、どのように多様な表現を引き出すことができたかについて、成果と課題が発表された。

○「器楽学習における協働性と学習の深まりーヴァイオリンを使った授業実践からー」

広島大学附属三原中学校 井上 翔太

学習に主体的に取り組む態度のA評価を想定させて生徒に記述させ、その記述をテキストマイニングで分析し、ChatGPTを利用して3つの評価ルーブリックを作成した。個人での取り組み、ペアでの取り組み、終了後のアンケート成果を総合的に分析した結果、ヴァイオリンを二人で一挺使ったペア学習を行うことで、協働することによる学習の深まりを実感できているという発表があった。

○「音楽的な見方・考え方を働かせながら、生き生きと学び合う子供の育成

—ICT を効果的に活用した「音楽づくり」の授業づくりを中心に—

広島市立鈴張小学校 森脇 智子

児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、生き生きと学びあう資質・能力の育成を目指した授業研究をするために、全学級担任を対象にワークショップ型のミニ研修を行う他、常時活動の工夫や、ICTを効果的に活用した全学年での授業公開など、学校ぐるみでの取り組みについて成果と課題が報告された。



模擬授業の様子



研究発表の様子